

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成17年9月22日(2005.9.22)

【公開番号】特開2005-118153(P2005-118153A)

【公開日】平成17年5月12日(2005.5.12)

【年通号数】公開・登録公報2005-018

【出願番号】特願2003-354247(P2003-354247)

【国際特許分類第7版】

A 6 1 H 3/04

【F I】

A 6 1 H 3/04

【手続補正書】

【提出日】平成17年6月24日(2005.6.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

高齢者や身体障害者等、下肢の不自由な人の歩行を補助するためのものであって、少なくとも1個の旋回可能な前輪を有する歩行器において、該前輪が、

a) 車軸を中心に回転可能な車輪と、

b) 車軸と本体とを連結する連結部材と、

c) 回動軸を中心に、連結部材を前後方向に回動可能に保持する連結部材保持部と、

d) 連結部材の前方への回動を止めるためのストッパであって、該回動を止めた時に常に車軸が回動軸よりも前方となるような位置に設けられたストッパと、

e) 車輪をストッパ側に付勢する弾性手段と、

を有することを特徴とする歩行器。

【請求項2】

高齢者や身体障害者等、下肢の不自由な人の歩行を補助するための、少なくとも1個の前輪を有する歩行器であって、該前輪が

a) 車軸を中心に回転可能な車輪と、

b) 車軸と本体とを連結し、旋回軸を中心に旋回可能な連結部材と、

c) 回動軸を中心に、連結部材を前後方向に回動可能に本体に保持する連結部材保持部と

d) 連結部材保持部の前方に、連結部材保持部が当接した時に常に車軸が回動軸よりも前方となるような位置に設けられたストッパと、

e) 連結部材保持部をストッパ側に付勢する弾性手段と、

を有することを特徴とする歩行器。

【請求項3】

更に、上記前輪の前方の歩行器の接地面よりも高い位置に補助車輪を有することを特徴とする請求項1又は2に記載の歩行器。

【請求項4】

上記構造を有する前輪を2個備えることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の歩行器。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

上記課題を解決するために成された本発明に係る歩行器は、高齢者や身体障害者等、下肢の不自由な人の歩行を補助するためのものであって、少なくとも1個の旋回可能な前輪を有する歩行器において、該前輪が、

- a) 車軸を中心に回転可能な車輪と、
- b) 車軸と本体とを連結する連結部材と、
- c) 回動軸を中心に、連結部材を前後方向に回動可能に保持する連結部材保持部と、
- d) 連結部材の前方への回動を止めるためのストッパであって、該回動を止めた時に常に車軸が回動軸よりも前方となるような位置に設けられたストッパと、
- e) 車輪をストッパ側に付勢する弾性手段と、  
を有することを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 4 】

本発明の歩行器では、前輪が段差に差し掛かった時に後方に跳ね上げられるため、前輪が段差に引っ掛かることがない。そのため、段差を容易に通過することができる。また、車輪がどの方向を向いている時でも車軸が回動軸よりも前方にあることにより、通常の歩行時には前輪が後方に跳ね上げられることがなく、不意に歩行器が前方に傾いて利用者が転倒するという恐れもない。更に補助車輪を設けることにより、段差を乗り越える時の歩行器の安定性がよりよくなるため、利用者がより安全かつ快適に歩行器を利用することができる。